

6 3 6 1 - 7 9 8  
平成 2 0 年 9 月 2 6 日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 所長

平成 2 0 年度病害虫発生予報第 6 号について  
平成 2 0 年度病害虫発生予報第 6 号を発表したので送付します。

## 平成 2 0 年度病害虫発生予報第 6 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。  
**発生予報の概要**

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
野菜・花き類	ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫	並	2
トマト	トマト黄化葉巻病 (TYLCV)		2
キュウリ・メロン	ウリ類退緑黄化病 (CCYV) (仮称)		2
カンキツ類	ミカンハダニ	並	3
果樹全般	果樹カメムシ類		3
チャ	炭疽病	並	3
	チャノコカクモンハマキ	並	4
	チャハマキ	並	4
	チャノホソガ	並	4
	カンザワハダニ	やや少	4
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	5
	チャノキイロアザミウマ	やや多	5
	クワシロカイガラムシ	並	5

### 作物の生育状況 (9月中旬)

普通期水稲は乳熟期～黄熟期、温州みかんは収穫前～収穫期、茶は秋芽生育期であった。

### 向こう1か月の気象予報

気温は平年より高い、降水量・日照時間は平年並と予想されている。

(1 か月予報 鹿児島地方気象台 9月26日発表)

## 発生予報の根拠および防除対策

### 野菜・花き類

#### 1 ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫（並）

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 都城市、西都市、国富町に設置したフェロモントラップによる誘殺数は、いずれの地点でも平年並で推移している。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、早期発見に努め若齢幼虫期の小さい内に防除する。

### トマト

#### 1 トマト黄化葉巻病(TYLCV)

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 病原ウイルスは、タバココナジラミ類(シハ-リ-フコジラミ、タハコナジラミハイタイプQ)によって伝搬されるので、媒介虫の施設内への飛び込みを防止し、増殖しないよう防除を行う。また発病株は見つけ次第抜根し、ほ場から持ち出し埋没処分する。
- ( 2 ) 育苗期に感染すると被害が激しく、全滅する場合もあるので、媒介虫の施設への侵入を防ぐため、育苗・栽培施設の開口部には、0.4mm以下の防虫ネットを設置するとともに、育苗期間中の防除を徹底する。
- ( 3 ) コナジラミは一旦密度が増加すると防除が難しいので、定植時に粒剤処理を行うとともに、発生初期の防除を徹底する。また、黄色粘着トラップを設置し、タバココナジラミ類の早期発見・密度抑制に努める。
- ( 4 ) タバココナジラミ パイオタイプQは、各種薬剤に対する感受性が低く防除効果が劣る場合があるので、適切な薬剤の選択が必要である。
- ( 5 ) タバココナジラミ類は多くの植物に寄生し、増殖するので、育苗・栽培施設内外の除草を徹底するとともに栽培目的以外の作物や観葉植物等を持ち込まない。

### キュウリ・メロン

#### 1 ウリ類退緑黄化病(CCYV)(仮称)

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 病原ウイルスは、タバココナジラミ類(シハ-リ-フコジラミ、タハコナジラミハイタイプQ)によって伝搬されるので、媒介虫の施設内への飛び込みを防止し、増殖しないよう防除を行う。
- ( 2 ) キュウリでは、特に摘心栽培で影響が出やすく、発生の程度によっては収量の減少につながる。メロンでは、感染した場合、着果とともに症状が激しくなり品質・収量が低下する。
- ( 3 ) キュウリ、メロンとも、育苗期からの感染防止に努め、特にメロンでは開花結実期までの防除を徹底する。
- ( 4 ) 草勢の低下により症状が進行する危険度が高まるため、葉面散布等の実施により草勢の維持管理に努める。
- ( 5 ) 防除対策については、トマトの黄化葉巻病の項を参照する。

## カンキツ類

### 1 ミカンハダニ (並)

[ 予報の根拠 ]

( 1 ) 9月中旬の発生面積率50.0% ( 平年38.7% ) は平年よりやや多、寄生葉率2.7% ( 平年8.3% ) は平年よりやや少である。

[ 防除上の注意 ]

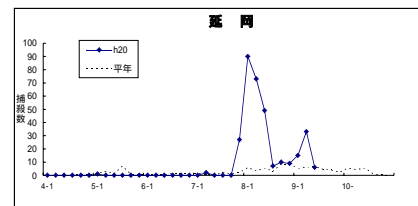
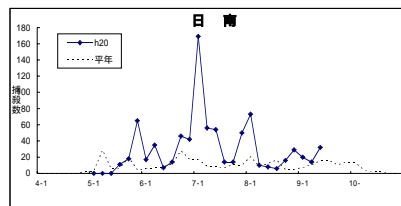
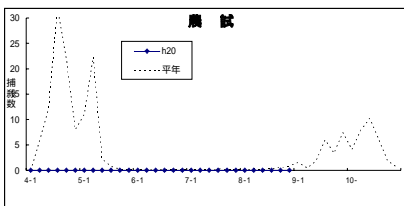
- ( 1 ) 生息密度が高くなると防除効果が劣るので、寄生葉率30%、10葉当たり虫数5～10頭を目安に、発生初期に防除を行う。
- ( 2 ) 同一及び同系統の薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ - テ - ション散布を実施する。

## 果樹全般

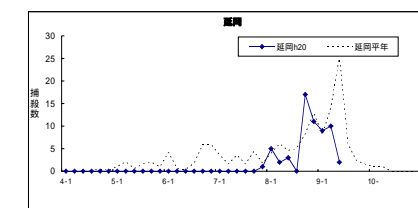
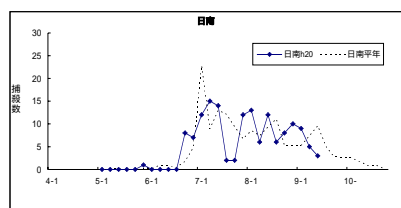
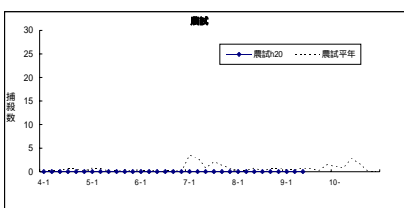
### 1 果樹カメムシ類

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 県内に設置している予察灯調査では、県南及び県北での誘殺数が多く、また、園地への飛来も確認されているので注意する。
- ( 2 ) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努める。
- ( 3 ) うんしゅうみかんでは、色ぬけから着色始め頃の加害は落果を生じやすく、特に注意が必要である。



#### ア 予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺状況



#### イ 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

## チャ

### 1 炭疽病 (並)

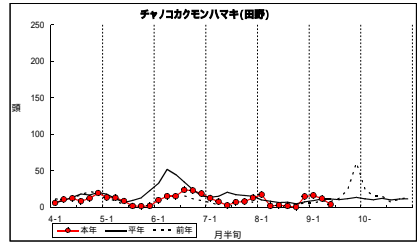
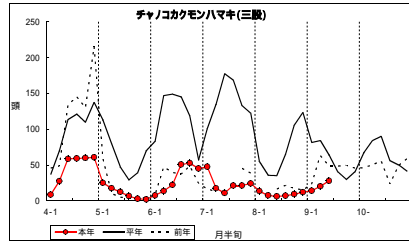
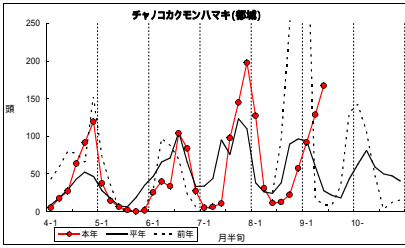
[ 予報の根拠 ]

( 1 ) 9月中旬の発生面積率52.9% ( 平年55.4% ) は平年並み、m<sup>2</sup>当たり病葉数2.3葉 ( 平年4.9葉 ) は平年よりやや少である。

## 2 チャノコカクモンハマキ (並)

[ 予報の根拠 ]

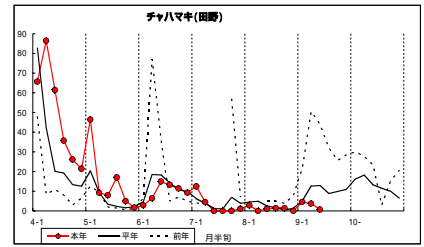
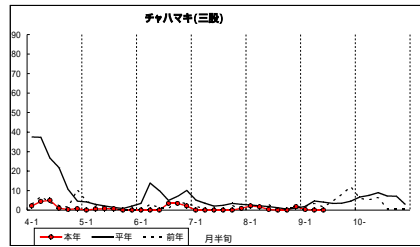
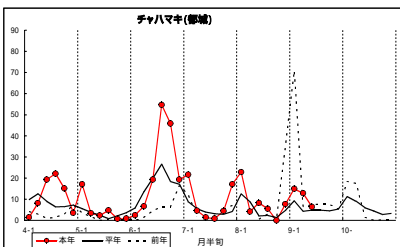
- ( 1 ) 9月中旬のほ場での発生は未確認 ( 平年0.0% ) である。
- ( 2 ) 都城市及び三股町に設置したフェロモントラップ調査では、発蛾最盛期はいずれも9月3半旬で平年より10日程度遅く、また、都城市での誘殺数が増加している。



## 3 チャハマキ (並)

[ 予報の根拠 ]

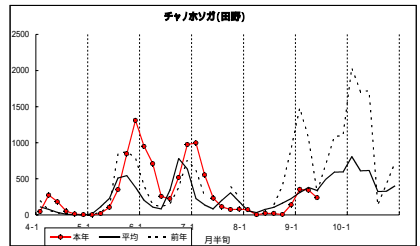
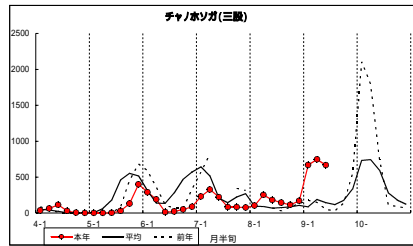
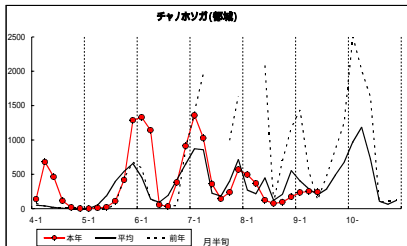
- ( 1 ) 9月中旬のほ場での発生は未確認 ( 平年0.5% ) である。



## 4 チャノホソガ (並)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 9月中旬の発生面積率5.9% ( 平年49.7% )、 $m^2$ 当たり巻葉数0.1葉 ( 平年2.8葉 ) はいずれも平年より少である。
- ( 2 ) フェロモントラップ調査での誘殺数は、宮崎市 ( 田野 )、都城市では平年並で推移しているが、三股町では9月に入って増加の傾向にある。



## 5 カンザワハダニ (やや少)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 9月中旬の発生面積率17.6% ( 平年34.6% )、寄生葉率0.5% ( 平年3.1% ) はいずれも平年より少である。
- ( 2 ) 向こう1か月の気温は、高いと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 防除適期は越冬前の10月中下旬である。本県では冬期でもダニの繁殖が見られるため越冬前の防除がより重要で、この時期の防除が十分でない翌年の一番茶への影響が大きい。
- ( 2 ) 同一薬剤、系統の連用を避け、作用性の異なる薬剤の口 - テ - ション散布を実施する。

## 6 チャノミドリヒメヨコバイ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 9月中旬の発生面積率64.7% ( 平年30.1% ) は平年より多、寄生葉率2.9% ( 平年1.8% ) は平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 成木園で秋整枝を行う園では特別に防除をする必要性は低いですが、幼木園では密度が高まると、新芽生育初期から加害され、被害が増加する傾向があるので、ほ場を観察し、被害が激しい場合は追加防除を実施する。

## 7 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 9月中旬の見取り調査による発生面積率35.3% ( 平年30.0% )、寄生葉率1.9% ( 平年2.5% ) はいずれも平年並である。

- ( 2 ) 払い落とし調査による発生面積率100.0% ( 平年31.2% ) は平年より多、払い落とし虫数7.5頭 ( 平年3.6頭 ) は平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 成木園で秋整枝を行う園では特別に防除をする必要性は低いですが、幼木園では密度が高まると、新芽生育初期から加害され、被害が増加する傾向があるので、ほ場を観察し、被害が激しい場合は追加防除を実施する。

## 8 クワシロカイガラムシ (並)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 9月中旬の巡回調査では発生面積率11.8% ( 平年16.9% )、寄生株率1.8% ( 平年3.9% ) はいずれも平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 最近、増加傾向にあるので早期発見に努める。( 周縁部から発生しやすい。 )

- ( 2 ) 防除適期は幼虫ふ化最盛期なので、県南部の第4世代の発生する地域ではふ化状況をよく観察して防除する。また、本年は気温の高い傾向が続いているため、平年発生のない地域でも、第4世代が発生する可能性があるため、ほ場内をよく観察し、必要であれば追加防除を行う。

- ( 3 ) 薬剤散布は、枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

## その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。  
日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>  
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。  
特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤（商品名、マリックス乳剤、粒剤等）は使用しないこと。
- 3 発生量（程度）の区分  
多 い （高 い） やや多いの外側 10%の度数の入る幅  
やや多い （やや高い） 平年並の外側 20%の度数の入る幅  
平年並 平年値を中心として 40%の度数の入る幅  
やや少ない （やや低い） 平年並の外側 20%の度数の入る幅  
少ない （低 い） やや少ないの外側 10%の度数の入る幅  
(平年値は過去 10 年間の平均)
- 4 予察情報の種類  
病虫害防除・肥料検査センターから発表する情報は次の 5 つです。  
(1) 予 報・・・向こう 1 か月の発生状況を予測し、毎月 25 日前後に発表する。  
(2) 注 意 報・・・主要な病虫害の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。  
(3) 警 報・・・主要な病虫害の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。  
(4) 特 殊 報・・・県内で初めて発生を認めた病虫害がある時や、病虫害の発生様相が特異な時に発表する。  
(5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病虫害の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

**お知らせ** (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。  
予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

### 【文書取扱】

病虫害防除・肥料検査センター 生頼

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp